

伊賀の中世城館

- ☆城といえは……姫路城や名古屋城の天守閣、大坂城や上野城にみられる高い石垣を連想する。しかしこれらの城は、江戸期すなわち近世の城である。
- ☆中世とは……1185年、鎌倉幕府成立期から、南北朝、室町、戦国時代までをいう。この時代に築かれた城や館を中世城館と呼ぶ。
- ☆城とは……城という字は、「土」と「成」からなっているように、土を掘り、その土を内側に盛り上げたものをいう。
- ☆城の発達……源頼朝の武家政治は、貴族政治を根本的に改革、在地土豪は荘園領主から独立を図り、勢力拡張をも図りつつ武士の拠点として城や館が築かれて発達、各地に小さく城塞が築かれた。
- ☆伊賀では……伊賀には東大寺の荘園が多くあったが、伊勢平氏の進出は荘園名主や一族郎党の武装化に拍車をかけ、地方武士の発生をもたらした。伊賀國衆と呼ばれ、村の支配者となった土豪は、一族郎党を従え農業経営にあたりると共に、外敵に対して武器をとって立ち上がる小軍団を形成し、自領を守るため城や館を構築するようになった。
- ☆自治組織……伊賀國衆は元弘元年（1331）後醍醐天皇が笠置山に籠城した際に参加、禁裏共御人と称して以後、南朝方に味方すると共に、自衛上農民を地域的に結合させて「惣」と呼ばれる自治組織をつくり、在地小領主となり村の支配者となっていった。
- ☆惣國一揆……他国からの侵略に対し惣を中心とする地域的結合をはかった。伊賀全体が団結すると、さらに隣接する近江國甲賀郡の郡中惣、同名惣を中心とする国人一揆とも連携を深めて在地領主権を守ることを考えた。神宮文庫蔵山中文書「惣國一揆掟之事」は伊賀惣國一揆の事情をよく物語る。
- ☆城館の調査……文化庁の補助事業として、昭和49、50年(1974~75)に三重県教委が城館の悉皆調査を実施、古城、城山、殿山、要害、城屋敷、殿屋敷、城の腰、城ノ下、城中、城之内、垣内、構、堀之内、堀などの地名や呼称、通称、伝承により調査。
文献としては、宝暦年間(1751~64)に編纂された『三国地志』巻六十七古蹟の項に堡、営址、宅址等に記載されていて、これを中心に調査。調査終了後の昭和52年(1977)当時の調査員、各市町村の教委職員、文化財専門委員、歴史研究者が集まり「伊賀中世城館調査会」を結成して現在も続けている。(32年間)

☆伊賀の中世城館数（平成22年3月31日現在）

市町村名	名張市	伊賀市	島ヶ原	阿山	伊賀	大山田	上野	青山	合計
城館数	74	571	12	116	73	57	253	60	645
不明数	22	242	6	55	42	21	83	35	264

☆城館のプラン…在地領主となった土豪は、自領支配を目的に住居を中心とした城館を構築、平地では居住に重点をおいた方形館が築かれ、丘陵地でも居住に重きをおいたので、城といった機能より、館（屋敷）といった機能を強く求めた結果、館の縄張を丘陵に持ち上げた形となった。戦国期には城としての機能を取り入れ改築を図ったものや新しい城がみられる。

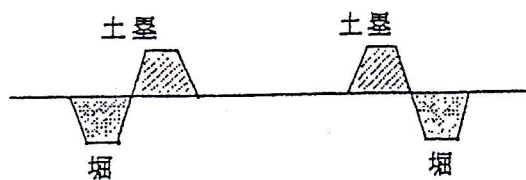
☆城の分類……『上野市の古城』福井健二（昭和 50 年 8 月刊）のなかで『三国地志』記載の城を次のように分類していると開設している。

1. 城……敵の攻撃を防ぐため土塁、石垣、堀、柵等の軍事的構築物で防衛されたもの。
2. 堡……城の小規模なもので、伊賀では土豪が丘陵や小山に設けた屋敷城や詰めの城を呼ぶ。
3. 砦……本城に対する出城や見張り台等、臨時の小規模な城を呼ぶ。
4. 宅址…土豪屋敷に土塁や堀をめぐらしたもの、伊賀では規模が小さいので館と呼ばず宅址と呼ぶ。
5. 営址…攻撃のため臨時に築いた城、駐屯地、陣所などを呼ぶ。

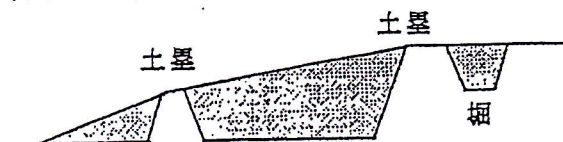
☆築城方法……伊賀での築城方法を、前掲『上野市の古城』によると

1. 掻揚形式…平地や丘陵の平坦部に設けられたものに多く、周囲に堀をめぐらし、この堀の土を内側に盛り上げて土塁としたもの。
2. 切込形式…丘陵や丘腹の斜面を利用して設けたものに多く、後方の堀や内部の土を切り込み、土塁や堀としたもの。
3. 掻揚切込形式…丘陵や丘腹に設けたものに多く、平地部分は掻揚、丘腹部は切り込み式を用いたもの。
4. 削平形式…丘頂や山頂に多く、地形から土塁を設ける場所がないものは削平して平坦地とし、後方に堀切を設けたもの。

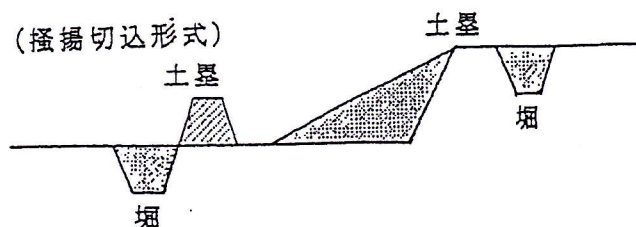
(掻揚形式)



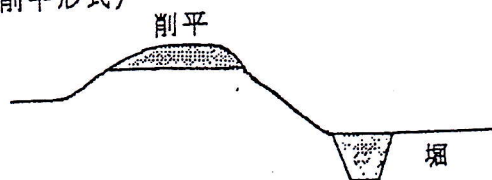
(切込形式)



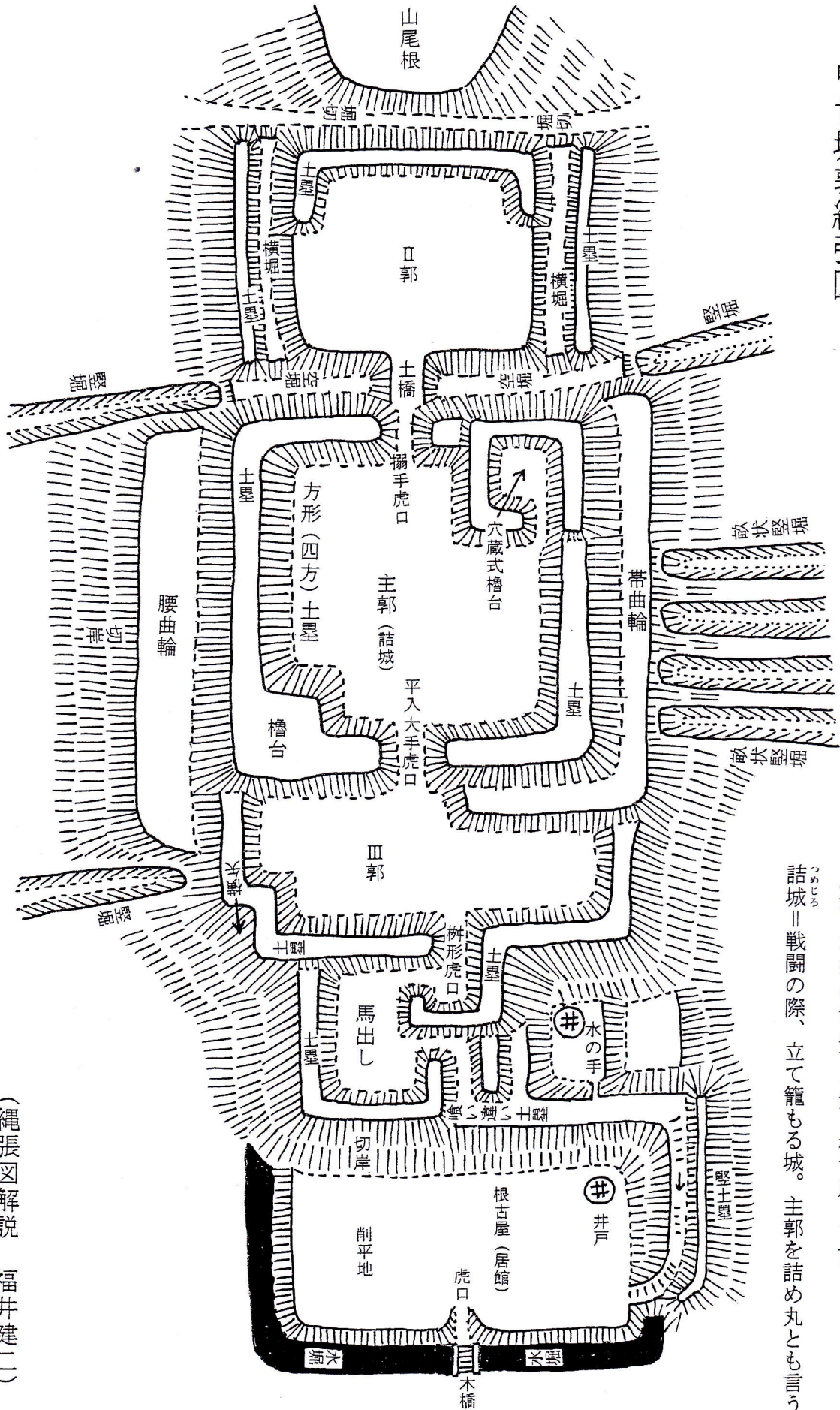
(掻揚切込形式)



(削平形式)



中世城郭縄張図



居館きよかん＝平時に住居する館。根古屋ねこやとも言う。
 詰城つめじょう＝戦闘の際、立て籠もる城。主郭を詰め丸とも言う。

(縄張図解説 福井健二)

三重の有名な山城

田辺城＝北勢町	大井田城＝いなべ市
治田城＝いなべ市	保々西城＝四日市市
市場城＝四日市市	伊坂城＝四日市市
采女城＝四日市市	田光城＝四日市市
峰 城＝亀山市	新所城＝亀山市
加太城＝亀山市	高岡城＝鈴鹿市
伊勢上野城＝津市	雲林院城＝津市
家所城＝津市	安濃白＝津市
宮山城＝津市	北畠氏館・霧山城＝津市
天花寺城＝松阪市	八田城＝松阪市
阿坂城＝松阪市	大河内城＝松阪市
五箇篠山城＝多気町	五ヶ所城＝南伊勢町
桃取城＝鳥羽市	越賀城＝鳥羽市
和具城＝鳥羽市	紀伊長嶋城＝紀北市
曾根城＝尾鷲市	鬼ヶ城＝熊野市
赤木城＝熊野市	その他500城余りあります。

三重の近世城郭 9城、4陣屋

長嶋城＝増山氏2万石
桑名城＝久松松平氏11万石
薦野陣屋＝土方氏1万2千石
亀山城＝石川氏6万石
神戸城＝本多氏1万6千石
津 城＝藤堂氏27万石
久居陣屋＝藤堂氏5万3千石
上野城＝藤堂藩の支城
名張陣屋＝藤堂宮内氏1万5千石
松坂城＝紀州藩の支城
田丸城＝紀州藩の支城
鳥羽城＝稲垣氏3万石
四日市陣屋＝幕府直轄領（代官所）